

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病 院 長 真田 建史

〔編集責任者〕広報委員長 真田 建史

〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕03-3300-5231(代表)

第 2 1 1 号

〔2025年3月12日発〕

発達障害医療研究所 研究報告会

昭和大学発達障害医療研究所では、研究に協力いただいていた当事者・ご家族に対し、研究の報告を毎年させていただきます。今回は、文部科学省に認定された「ヒトの発達と社会性に関するヒューマンサイエンス研究領域連携拠点」と科学技術振興機構（JST）のムーンショット型研究開発事業の共催で開催しました。当日の発表者から報告をさせていただきます。

デイケア・シンポジウムを開催して

発達障害医療研究所 准教授 中村 元昭

2025年1月12日（日）に烏山病院リハビリテーションセンターにて、デイケア・シンポジウムを開催しました。文部科学省に認定された「ヒトの発達と社会性に関するヒューマンサイエンス研究領域連携拠点」と科学技術振興機構（JST）のムーンショット型研究開発事業（目標9）の共催で、テーマは「社会性研究は発達障害にどう役立つのか～研究者と当事者のクロストーク～」です。当日の参加者は70名で、半数弱が研究者で、残りの半数強（多数派）が神経発達症の当事者（および家族）の方々でした。当事者が半数以上を占める学術集会において、



様々な分野の専門家が集いました。神経科学（脳科学）、情報科学、ロボット工学、薬理学、言語学、心理学、精神医学などの専門家に加えて、「経験専門家」が多数参加しました。ここで言う経験専門家とは、神経発達症のリアルな日常体験を客観的に言語化し、支援やウェルビーイングについて議論することのできる当事者または家族です。その人自身に関して、神経発達症臨床の専門家よりも深い理解を有する当事者エクスパートたちのことです。



前半は研究者と当事者によるスライド発表（5演題）と質疑応答がありました。各領域の研究者が研究成果をわかりやすく説明し、それに対して経験専門家から活発な質問やコメントがありました。学会の質疑のような専門的な質問から、当事者目線での期待や要望、懸念など生の声があがり、とても有意義な意見交換を皆で共有することができました。後半は、参加者が館内を自由に歩き回り、ポスター発表（10件）や機器類のデモ体験（4件）に参加し、おやつを食べながらの交流会も同時に行いました。経験専門家たちが多領域で活躍する研究者と対面で交流しました。これからもこのような包摂的な学術集会を継続し、当事者と研究者とが相互に語り合い、研究活動の先に見えてくるビジョンを共有できないだろうかと思っています。これからも研究活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



当事者 鯨原 徹

昭和大学附属烏山病院の ASD を対象とするプログラムに参加する中では、同じ診断を受けた多くの者たちと交流する機会を持つ。その中で必ず気付くに違いない事に、特性の現れ方の多様性がある。自分と同じ特性ばかりの誰かと出会う事などほとんどないほどに、ひとりひとりの ASD 者は違っている。困り事だけに着眼すれば、それらの現れ方であったり、現れどころであったりは共通点を見出せるので、だからこそ共に学ぶ機会には大きな価値があるのだが、ここでは、いましばらく、特性の多様性について考えたい。

自身が抱え持っている ASD とは、一体、何なのだろうかと、ASD と診断された者であるなら自問してみたことがあるものと思う。一方では、脳と呼ばれる臓器の形成上の違いに ASD は由来していると今日の医学は語る。そして、多くの研究者が、どのような神経生物学的な相違点が ASD の原因であるのかを研究している。とは言え他方では、かつてアスペルガー症候群と呼ばれていた診断がより広く自閉症スペクトラム障害と呼び変えられたように、その現れ方は連続した広がりある多様性として、やはり今日の医学は語る。そして、この連続した広がりある多様性は、今日、ニューロ・ダイバーシティと呼ばれるより広い脳特性の現れ方の多様性の一部として捉えられていて、そこには定型発達者たちもがそのどこかに属していると語られる。確かに、生物学的ななにかの違いが、ASD 者であるわたしたちの中で、ASD の特性として発現したのだろう。だが、これはどのように兆し、どのようにその違いが波及し展開して、いまのわたしの困り事をなす特性をもたらしたのだろうか。この問いは、ASD 者にとって先の自問内容である。

ここで視界に収めている領野は、「心」とも呼ばれて来たものだ。ここで兆し展開する諸々の出来事を言葉として表現し語る事の可能な、一人の者を言い当てる呼び名が「わたし」である。「わたし」以外に語る事の出来ない、「わたし」が言葉化するよりない、困り事として特性が展開した一兆し、波及し、成長し、複雑化した一諸々の出来事を言葉化し語られた事は、脳の多様性を理解しようと望む努力

にとって必須の一次源泉となる筈である。ここには、当事者だけが果たし得る、医療の発展に貢献する可能性が開けている筈である。

これを、他の誰かが語る可能性は開け得ない。「わたし」だけが果たし得る「わたし」だけの貢献は、他の誰かが肩代わり不可能である。けれどこの貢献は、ASD 者にとって困難事ではない。なぜなら、ASD 特性の現れ方は多様で、しかも ASD 者は自身が他の誰とも違う事をよく知っているのだからだ。それらの上で、わたしたちがプログラムの中で、担当スタッフとの面談で、ピア・サポートで、当事者研究で行う発言のひとつひとつとして、それぞれの「わたし」だけが果たし得る貢献は既に遂げられていると、わたしは言う。



新興感染症対策訓練 in 藤が丘病院

C3 病棟 看護師長 池ヶ谷 訓章

2025 年 1 月 27 日（月）、藤が丘病院（感染対策向上加算 1）が主催する新興感染症の発生等を想定した訓練が開催された。参加施設は、感染対策向上加算 3 を届け出ている烏山病院と、藤が丘病院と連携している横浜市内の 3 つの医療機関が参加した。訓練では、基本的な感染対策（標準予防策・経路別予防策）に加え、個人防護具の正しい着脱方法および N95 マスクのフィットテストの概要説明の講義が行われた。講義後、実際に新興感染症を想定した full PPE の着脱訓練を実施した。



新興感染症とは、「最近新しく認知され局地的にあるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症」のことである。新興感染症の一例としては、新型インフルエンザやエボラ出血熱、新型コロナウイルス感染症などがある。新興感染症が問題となった場合、地域や医療機関で大きな混乱が発生する。急な対応を求められる場合が多く、日ごろから新興感染症を想定した準備や PPE の着脱訓練などを行っておく必要がある。着脱訓練を実施してみての感想としては、個人防護具を脱ぐ順番の重要性和脱ぎにくさを経験することができた。特に今回は防護服（つなぎタイプ）を使用したため、脱ぎ方が難しく自分が汚染するリスクが高いことが実感できた。参加者は、医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務員と多岐にわたるため、日ごろから PPE を使用している職種だけではないことから、慣れない職種の場合にはサポートが必要なことも経験できた。新型インフルエンザなど、今後新たな新興感染症が世界的に流行する可能性もあるため、今回行った訓練を当院職員にも計画的に行いながら準備を進めていく必要があると実感した。

デイケア活動

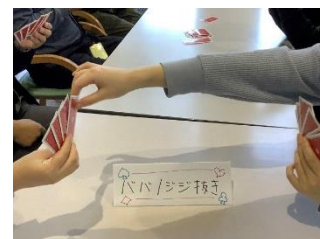
H.R さん

昨年10月からデイケアのプログラム、プロジェクトKがリニューアルしました。以前は数ヶ月かけてイベントを企画、準備、開催していましたが、月一回のペースでイベントを開催する形に変わりました。

これによってイベントの規模は小さくはなりましたが、企画を提案する機会が増えました。プロジェクトKのメンバー以外も参加できるようデイケア内で告知してイベントを周知し、プロジェクトKが親しみやすくなるイベントになるよう努めています。私もメンバーを増やしていくためには興味を引けるような告知が重要であると考え、特に頑張っています。また、何カ月もかけて準備していると途中でメンバーの熱意が下がり気が緩んでしまうことがありましたが、毎月開催になることで防げるようになりました。

編集時点までに行われたイベントは麻雀講習会、カードゲーム大会、初詣、カルタ大会があります。中でもババ抜きと七並べを行ったカードゲーム大会は、当日に7人も参加者が加わり白熱したゲームになり、終了後の評判もよかったです。

ゆくゆくはこのコラムでプロジェクトKでのイベントがたくさん取り上げられるといいなと思います。



《1月》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,646(8,721)	6,406(6,197)
◇一日平均患者数	278.9(281.0)	263.3(266.9)
◆診療実日数	31(31)	23(24)

総合サポートセンター ～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時
土曜日 8時30分～13時
電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329
土曜日 03-3300-5231
◎初診受付：月曜日～金曜日・8時30分～14時
土曜日 8時30分～12時
◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

【編集後記】

2024年度も終わりが近づいてきました。
みなさんはどんな一年だったでしょうか？
2024年といえば物価高のニュースをたびたび見たことと思います。お米が大好きな私はお米の値上がりに苦しんだ一年でした…（笑）
来年はどんな一年になるでしょうか。少しでも家計が楽になるような一年になることを祈ります☆
一年間ありがとうございました。
（広報委員 西田 歩未）

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

こちら当院のホームページのQRコードとなります。ぜひご覧ください。



鳥山病院精神医学講座Instagramが開設されました。
随時情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。